

平成 27 年 4 月 1 日から

平成 28 年 3 月 31 日まで

平成 27 年度
事業計画・収支予算書

***本資料は web サイト掲示用の要約版です。**

公益財団法人ベネッセこども基金

ミッション

ベネッセこども基金は、
未来ある子どもたちが、安心して学習に取り組める環境のもと
自ら可能性を広げられる社会を目指し、
子どもたちを取り巻く社会的な課題の解決、
および多様な学びの機会の提供に長期・継続的に取り組みます



活動内容

1. 子どもの安心・安全を守るための活動

子ども自身が自分を守るための力を育むとともに、子どもを見守りながら育てられる地域の環境づくりを目指して、専門家と連携しながら子どもの安心・安全に関わる知見の提供に取り組みます。

2. 経済的困難を抱える子どもの学習の支援

経済的困難を抱え、学習に関して十分な支援を受けられずにいる子どもたちを対象に、活動を行っている日本各地の団体を応援し、発展を促進していくことで、支援がより広く、より多く届くよう取り組みます。

3. 重い病気や障がいを抱える子どもの学習の支援

重い病気や障がいによって、学びへの意欲向上や学習に対する支援を必要としている子どもたちや保護者の方々に対して、学びへの不安や課題を少しでも減らせるよう、学習サポートや情報提供に取り組みます。

4. グローバル社会を生きる子どもの学び支援

子どもたちが自分の価値観をもって主体的に社会と関わり、自らの未来を切り拓いていくための力を醸成できるよう、すでに先進的な取り組みがある団体と連携しながら、多様な学びの機会提供に取り組みます。

5. 災害地の子どもたちの学びや育ちの支援

災害という一時的な困難によって、子どもたちが本来持っている力が妨げられてしまうことのないように、災害地の子どもたちの育ちや学びの支援に取り組む団体への助成や、状況に応じた緊急支援などに取り組みます。

平成 27 年度の方針

平成 26 年度、当財団は子どもの可能性を広げられる社会の実現を目指して一般財団法人として設立、経済的困難を抱える子どもの学習支援活動を行う団体への助成事業と、子どもの安全意識を高める教育プログラムの開発から事業を開始しました。今年度（平成 27 年度）は、公益財団法人として内閣府に申請した各テーマの事業を本格的に始動し、助成事業と自主事業それぞれに実績を積み上げ、財団として活動のフレームを構築する年度とします。

I.平成 27 年度事業計画

1. 子どもの安全・安心を守るための活動

保護者の大きな関心事である子どもの安心・安全に対して、子ども自らが安全意識を醸成することに資するような教育プログラムの開発・提供に取り組む。

実践的なノウハウを持つ団体と連携し、子どもの安心・安全に関心を持つ方々が自由に活用できるプログラム開発を行うとともに、当財団の制作物が活用いただける環境作りにも並行して取り組む。

1) 平成 26 年度に制作した「子どもの安全・安心ハンドブック」の活用促進

- (1) 各地の校内・PTA 研修等の場への冊子無償提供
- (2) 冊子に連携したワークショッププログラムを新規開発

2) 保護者の関心の高いテーマについての新たなコンテンツの開発

「子どもの安全・安心ハンドブック」に続くものとして、防犯環境、ネットリテラシーや防災関連をテーマに内容を検討。

3) 財団 web サイトを活用した情報提供

上記活動を通して得た知見は、当財団の web サイト上でも紹介し、広く社会に還元していく。

2. 経済的困難を抱える子どもの学習の支援

6 人に 1 人と言われるこどもの貧困、経済的な理由から生じる教育格差の広がりなどの社会的な課題に対して、意欲ある子どもたちが自らの可能性を広げていけるように「ベネッセこども基金」らしい学びの機会支援を行う。より多くの子どもたちに支援が届けられるように、子どもたちの支援活動に取り組む団体を通じた支援を核に取り組む。

1) 「経済的困難を抱える子どもの支援活動」の助成（第 2 回／11 月頃）

「経済的困難を抱える子どもたちの学習の支援」をテーマに、子どもたちへの学びの機会の提供や学習環境づくりなどの活動に取り組む団体への助成を行う。

平成 27 年 11 月より当財団のホームページ等で募集を行い、総額 2,000 万円(上限)の助成を実施する。審査は有識者からなる助成選考委員会で行う。

3. 重い病気や障がいを抱える子どもの学習の支援

重い病気や障がいなどにより困難な状況に置かれている子どもたちの学習及び学習への意欲向上や可能性拡大に寄与するために、子ども自身や周囲の大人たちに対する支援を行う。

1) ICT 機器を活用した院内学級での学習サポート

入院中・長期療養中の子どもと院内学級・病室内の友人や家庭を、ICT 機器でつなぎ、子どもの意欲向上や学びの支援へとつなげる。

- (1) 院内学級におけるテスト実施（前期）
- (2) 上記テストによるモデル構築 →他病院等への展開検討（後期）

2) 「重い病気を抱える子どもの学習支援活動」の助成（第 1 回/7 月頃）

「重い病気を抱える子どもたちの学習支援」をテーマに、重い病気を抱える子どもたちへの学習機会の提供や学習環境づくりなどの活動に取り組む団体への助成を行う。平成 27 年 7 月より当財団のホームページ等で募集を行い、総額 2,000 万円（上限）の助成を実施する。審査は有識者からなる助成選考委員会で行う。

3) 「発達障害支援サイト」の構築と運営

発達障がいをもつ子どもに関わる大人（保護者・学校の先生等）が活用できる情報提供サイトを構築し、運営を開始する。

4. グローバル社会を生きる子どもの学び支援

「未来からの留学生」である子どもたちが、グローバル化が進むこれからの社会で、自らの可能性を広げ、主体的に社会に関わりながら生き抜いていくために必要な、多様な学びの機会を支援する。

1) グローバル社会を生きる子どもたちにとって必要な学びの機会の提供

国際化・情報化のなかで、価値観が多様化し、めまぐるしく変化する社会にあっても、自分の価値観を持って主体的に社会に働きかけ、変えていける力を育み、自らの可能性を広げることに寄与する幅広い学びの提供に、同様の目的で事業を実施する他団体とも連携し取り組む。

2) 上記実践事例の成果のまとめ・発信

5. 災害地の子どもたちの学びや育ちの支援

各地で発生する災害に対して、その地域に暮らす子どもの学びや育ちを支援している各種団体へ助成を行うことにより、困難な状況に置かれている子どもたちの豊かな成長に寄与する。

1) 「災害地の子どもたちの育ちや学びの支援活動」の助成(第1回/11月頃)

「災害地の子どもの育ちや学びの支援」をテーマに、災害地域に暮らす子どもたちの学びや育ちの支援に取り組む団体への助成を行う。

平成27年11月より当財団のホームページ等で募集を行い、総額2,000万円(上限)の助成を実施する。審査は有識者からなる助成選考委員会で行う。

Ⅱ.収支予算

収支予算計算書(正味財産増減計算書ベース)

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位:円)

科目	公益事業会計	法人会計	合計	備考
	子どもの学び 支援事業			
I. 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取寄付金	117,822,000	16,253,000	134,075,000	
受取寄付金	117,822,000	16,253,000	134,075,000	
経常収益計	117,822,000	16,253,000	134,075,000	
(2) 経常費用			0	
事業費	117,822,000	0	117,822,000	
給料手当	13,352,000		13,352,000	
法定福利費	1,920,000		1,920,000	
旅費交通費	3,810,000		3,810,000	
運賃通信費	500,000		500,000	
普及宣伝費	1,480,000		1,480,000	
渉外費	250,000		250,000	
制作費	8,250,000		8,250,000	
印刷製本費	1,500,000		1,500,000	
報酬	450,000		450,000	
会議費	660,000		660,000	
支払助成金	60,000,000		60,000,000	
支払手数料	150,000		150,000	
委託費	25,200,000		25,200,000	
ソフトウェア償却費	300,000		300,000	
管理費	0	16,253,000	16,253,000	
給料手当		6,938,000	6,938,000	
法定福利費		408,000	408,000	
報酬		500,000	500,000	
会議費		120,000	120,000	
旅費交通費		0	0	
通信運搬費		9,000	9,000	
普及宣伝費		750,000	750,000	
渉外費		120,000	120,000	
制作費		300,000	300,000	
印刷製本費		539,000	539,000	
消耗品費		24,000	24,000	
賃借費		2,341,000	2,341,000	
リース料		912,000	912,000	
支払手数料		60,000	60,000	
委託費		2,280,000	2,280,000	
ソフトウェア償却費		742,000	742,000	
雑費		210,000	210,000	
経常費用計	117,822,000	16,253,000	134,075,000	
評価損益等調整前当座経常増減額	0	0	0	
当期経常増減額	0	0	0	
(1) 経常外収益			0	
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用			0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
他会計振替額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	0	0	0	
一般正味財産期首残高	0	0	0	
一般正味財産期末残高	0	0	0	
II. 指定正味財産増減の部			0	
受取寄付金	120,000,000	30,000,000	150,000,000	
一般正味財産への振替額	△ 117,822,000	△ 16,253,000	△ 134,075,000	
当期指定正味財産増減額	2,178,000	13,747,000	15,925,000	
指定正味財産期首残高	290,072,500	0	290,072,500	
指定正味財産期末残高	292,250,500	13,747,000	305,997,500	
III. 正味財産期末残高	292,250,500	13,747,000	305,997,500	